

厚生・産業常任委員会 県内行政調査

1 調査日 令和8年7月14日（火）

2 調査の概要

（1）国立大学法人滋賀医科大学（大津市）

滋賀医科大学は、昭和49年（1974年）に設立された県内唯一の医科大学であり、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学」という理念のもと、全人的医療を行う優れた医療人の育成、特色ある医学・看護学研究、先進的な高度医療の実践に取り組み、長年にわたり地域医療の発展と県民の健康増進に寄与している。平成10年（1998年）には、国立大学で初めて医学科推薦入試に「地域枠」を導入したほか、平成19年（2007年）からは、文部科学省の平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に、地域医療を担う医師・看護師の育成を目指す地域参加型支援事業「地域『里親』による医学生支援プログラム」が採択され、補助金終了後も大学独自の事業として継続実施するなど、本県で活躍する医師・看護師の育成に取り組んでいる。

また、県内唯一の特定機能病院である同大学医学部附属病院では、令和8年（2026年）4月に機能強化棟が全面稼働した。同施設は、救急医療機能の強化、放射線治療部門の刷新、光学医療診療部の機能拡充などを通じて、高度急性期医療への対応力を一層高めるものである。

本委員会では、「医療提供体制の充実と人材確保について」を重点審議事項として位置付けており、滋賀県保健医療計画の中期見直しをはじめ、滋賀県外来医療計画、滋賀県医師確保計画、滋賀県地域医療構想の骨子案などの多岐にわたる計画の審査を予定していることから、今後の委員会審議の参考とするため、同大学の取組について調査を行った。



（２）学校法人立命館 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス（草津市）

立命館大学びわこ・くさつキャンパスは、平成６年（１９９４年）に開設され、社会科学と自然科学が融合した国際水準の文理融合型キャンパスとして、新たな教育・研究システムの開発に努めるとともに、「地域に開かれたキャンパス」を目指して、教育、研究、社会貢献に取り組んでいる。

令和７年（２０２５年）７月に、同キャンパス内に開設されたグラスルーツイノベーションセンター（ＧＩＣ）は、経済産業省の令和４年度補助事業「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」（大学等向け）の採択を受け、オープンイノベーションとインキュベーションの２つの機能を有する施設として整備された。学生、研究者、企業、地域が連携し、新たな発想を形にして社会課題解決に挑戦する場を提供するとともに、イノベーション人材や創発性人材の育成をリードし、大学発スタートアップの創出や産学連携による社会実装を推進している。施設には、ＳＴＥＡＭ教育やアントレプレナーシップ教育の展開、試作やアイデアの具現化を支援するＧＩＣ Fab、地域・企業との連携を促進するコワーキングスペース、起業を目指す研究者や学生向けのウェットラボや共用ラボ、登記可能なラウンジなどが整備され、多様な人材の交流と価値創出を支援するものである。

一方で、県内企業は、長期化するエネルギー価格の高止まりや円安の影響に加え、少子高齢化に伴う人材不足や国際情勢の不安定化、さらに生成ＡＩや高度なデジタル技術の急速な普及など、多様かつ大きな変化や不確実性に直面しており、本県施策としては、中小・小規模事業者の経営基盤や稼ぐ力の強化・下支えを基本に、将来を見据え、変化をチャンスと捉える視点から、次世代産業の創出に向けたエコシステムの充実や本県産業を支える人づくりなどがますます重要となっている。

本委員会では、「地域経済の安定・活性化と人材の確保・育成・活躍推進について」を重点審議事項として位置付けていることから、今後の委員会審議の参考とするため、同大学の取組について調査を行った。

